

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 京丹後市国際交流協会

1. 事業名称 社会参画にむけた日本語教室

2. 事業の目的

生活者としての外国人が、情報収集能力をつけ、制度等の理解を深め、自立と社会参画を促進し多文化共生のまちづくりに資することを目的に、生活に関する身近な制度についての知識や地域の慣習等についての理解を深めるために実施した。

3. 事業内容の概要

生活に関する身近な情報や行政等の施策に関する情報の収集方法などを、市広報誌やホームページの活用、市役所への見学などとおして学ぶ、「くらしの情報収集のための日本語講座」を実施した。

日本文化については、親子で学んでもらえる機会を設け、親子で共通の文化を学び、家庭などでも活かせることを期待する、「親子で学ぶ日本文化の日本語講座」を実施。

生活する上で関わりのある人との関係を築く上で重要な挨拶や、就労した場合に周りとの調和を図るために必要なマナーを学ぶ、「日本語マナー講座」を実施した。

学習に対するモチベーションを上げる効果や社会参画にむけた取り組みを外国人同士で支えあって進めていけることを期待している。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年6月 17日 13:30～16:30	3時間	京丹後市役所 会議室	近藤 徳明 川口 誠彦 渡部 真理 藤村 益弘 上田 美知子 松本 経一	* 事業計画と実施について	参加者の募集方法 実施にむけた連携について
2	平成26年1月 15日 13:30～16:30	3時間	京丹後市役所 会議室	近藤 徳明 川口 誠彦 藤村 益弘 上田 美知子	* 事業報告と成果について	成果と課題について

5. 取組についての報告

○取組1:くらしの情報収集・情報活用のための日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

生活や暮らしに必要な情報を収集できる能力を習得向上することで、自立を促す。

(2) 取組内容

- * 生活に役立つ情報発信元を知る。
市秘書広報広聴課から、広報誌、ホームページ、ケーブルテレビなどで情報が発信されていることを講演
- * 市お知らせ版などを使い、よく使われる言葉を知る。
案内:募集:保健福祉など、キーワードから学ぶ
- * 各種申請書類などを使い、個人情報をも自分で記入できるように練習する。
住所、氏名、年齢、性別など記載事項を理解する。

(3) 対象者 市内在住外国人(近隣市町村からも参加可能)

(4) 参加者の総数 26人

(出身・国籍別内訳

中国 6人, フィリピン 18人, タイ 2人

(5) 開催時間数(回数) 20 時間 (全 8回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年7月23日 13:30～16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	18人	タイ(1) 中国(5) フィリピン(12)	自己紹介	初対面のあいさつ方法を教える。次に名前札を作成し、あいさつや簡単な自己紹介の方法を教え、実践する。	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
2	平成25年7月26日 13:30～16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	18人	タイ(1) 中国(5) フィリピン(13)	市広報誌について	市広報担当者を招き、市が発行する広報誌の目的や掲載内容の説明。	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
3	平成25年7月30日 13:30～16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	13人	中国(4) フィリピン(9)	市広報誌について	市情報誌掲載中情報の語彙について学習。	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
4	平成25年8月2日 13:30～16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	13人	中国(4) フィリピン(9)	市広報誌について	市候補誌掲載の市内病院の診療科・受診の際の言葉について学習。	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
5	平成25年8月6日 13:30～16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	13人	中国(4) フィリピン(9)	ゴミの分別・仕分け	市内に配布されているゴミ収集カレンダーを使いゴミの分別に関する言葉を教える。	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
6	平成25年8月20日 13:30～16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	13人	タイ(1) 中国(4) フィリピン(8)	公共施設の利用について	市役所内見学と図書館の利用申請に関する言葉の学習。	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
7	平成25年8月23日 13:30～16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	13人	タイ(1) 中国(4) フィリピン(8)	防災行政無線、防災マニュアルの活用	災害等の際に防災行政無線で放送される言葉などを学習	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
8	平成25年8月27日 13:30～16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	12人	タイ(1) 中国(5) フィリピン(6)	救急・消防の活用	119への通報の練習	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子

(7) 参加者の募集方法

京丹後市から16歳以上の在住外国人リストをもらい、個別に発送を行った。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

- * 市広報担当者を招き、どんな情報を市民に伝えようと広報誌を作成しているか説明してもらった。
- * 防災行政無線から放送されるJ-ALERTの緊急放送を聞き取れる学習を行った。
- * 消防本部に協力いただき、実際に消防署への通報練習も行った。
- * 市役所に見学に行き、事前に学んだ、窓口への質問のしかたを実際に窓口で行った。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

- * 取組終了後、個別に聞き取りを行った結果、これまで市広報紙等、行政から届く書類は自分で見ようとしなかったが、自分に理解できる言葉があるか探すようになったという意見が多かった。また、自分の住所、家族の名前を日本語で書けるようにすることの必要性を認識された多くの学習者がその後、日本語で住所等を書けるようになった
- * 子育て中の学習者も多く、子どもの育児や教育についての情報を自分で知りたいという意見も多かった。

(10) 改善点について

- * 市広報誌の掲載内容や災害時に使われる語彙の理解が難しい学習者もいたようなので補助講師が横について説明の補足を行ったが、学習者のレベルが様々なので、もう少し時間をかけてゆっくり復習を行う必要があった。
- * 学習者が知りたいと感じた、子どもの育児や教育についての情報についても、学習内容として取り入れるなど、ニーズに合わせた内容を検討する。

○取組2:日本文化の日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

日本文化の特徴や言葉などを学び、おもてなしや思いやりの文化を理解するとともに必要な日本語を習得し、家庭や職場などで活かすことを目標とする。

(2) 取組内容

- * 茶道の特徴“おもてなし”“おもいやり”を理解し、日本文化がもたらすコミュニケーションの広がりを学ぶ。
茶道の所作(例:隣の人に、お先になど、)から、日ごろ周りへの配慮を意識する意味を学ぶ。
- * 筆を使って字を書く場面を知り、筆で文字を書く練習を行う。
熨斗袋など、筆を使って書くことがマナーとなっていることを知り、美しい字を書くことの目的なども学ぶ。

(3) 対象者 市内在住外国人(近隣市町村からも参加可能)

(4) 参加者の総数 17人

(出身・国籍別内訳
タイ 2人, ベトナム 4人, フィリピン 6人、中国 5人)

(5) 開催時間数(回数) 20 時間 (全 8回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年9月5日 13:30～16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	15人	タイ(2) 中国(5) フィリピン(4) ベトナム(4)	日本文化の種類	日本文化の種類について紹介	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
2	平成25年9月10日 13:30～16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	15人	タイ(2) 中国(5) フィリピン(4) ベトナム(4)	華道について	道具の名称と生活で使える生け花について学習	朝日 恵子 瀬川 純子 荒木 良子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
3	平成25年9月12日 13:30～16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	16人	タイ(2) 中国(4) フィリピン(5) ベトナム(4)	書道について	道具の名称。毛筆で書く場面紹介	朝日 恵子 瀬川 純子 岡崎 照代	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
4	平成25年9月17日 13:30～16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	16人	タイ(2) 中国(4) フィリピン(5) ベトナム(4)	書道について	実際に毛筆を使って文字を書く練習	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
5	平成25年9月20日 13:30～16:00	2.5時間	三要禅寺	14人	タイ(2) 中国(4) フィリピン(5) ベトナム(4)	茶道について	茶道の特徴について紹介	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
6	平成25年9月24日 13:30～16:00	2.5時間	三要禅寺	14人	タイ(1) 中国(4) フィリピン(4) ベトナム(4)	茶道について	道具の名称。毛筆で書く場面紹介 日常で使える挨拶の仕方	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
7	平成25年9月26日 13:30～16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	15人	タイ(2) 中国(5) フィリピン(4) ベトナム(4)	着物について	浴衣と着物の違いの紹介。	朝日 恵子 瀬川 純子 岡 眞子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子

8	平成25年10月1日 13:30～16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	15人	タイ(2) 中国(5) フィリピン(4) ベトナム(4)	着物について	着物の名称。浴衣の着付けかた	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
---	---------------------------	-------	------------	-----	---------------------------------------	--------	----------------	----------------	-------------------------

(7) 参加者の募集方法

京丹後市から16歳以上の在住外国人リストをもらい、個別に発送を行った。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

- * 毛筆を使って文字を書くことの場合面紹介では、熨斗紙、熨斗袋を使う文化についても学習した。自分の名前を毛筆で書く練習を行った。先生から、受講者一人ひとりに手本が配られ、各自持ち帰って、自分で練習が行えるよう促した。
- * 茶道についての学習では、実際に茶道のデモンストレーションを行い、所作を見学してもらった。その中で、実生活にも使える作法(お辞儀やお茶の出し方など)を言葉と所作を学んだ。
- * 日本語教室の趣旨に賛同された団体から無償で浴衣をレンタルでき、講師から着付けの手順を学び、学習者が自分で着付けする体験を行った。(クリーニング代だけ負担)



(9) 取組の目標の達成状況・成果

- * 取組終了後に個別に聞き取りを行った結果、学習者のほとんどが、今回の学習で日本文化を初めて体験したという方が多かった。
- * 実際に浴衣を着ることで、着物を着る場面と浴衣を着る場面との違いについて分かりやすかったと感想が寄せられた。
- * 各専門の講師も以前に外国人への指導を行ったことがあった方だったので、学習者から、分かりやすかったと好評だった。また、補助講師もそれぞれ茶道、着付けができる方が多く、細やかな指導ができた。

(10) 改善点について

- * 当初は親子での文化体験を行う予定だったが、子どもと一緒に来る学習者がおらず、大人だけの教室となった。

○取組3:日本語マナー講座

(1) 体制整備に向けた取組の目標

市内企業やハローワークに協力いただき、どのような心得を持つ人材が企業や社会に必要な意見を聞き、在住外国人が社会参画するために必要な知識を習得する。

(2) 取組内容

母国と日本の冠婚葬祭やビジネスマナーの違いについて。
敬語・丁寧語を使う場面を想定し、語彙の習得と会話練習
就職にむけてのステップを学ぶ

(3) 対象者 市内在住外国人(近隣市町村からも参加可能)

(4) 参加者の総数 17人

(出身・国籍別内訳

タイ 2人, ベトナム 4人, フィリピン 6人, 中国 5人

(5) 開催時間数(回数) 20 時間 (全 8回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年11月1日 13:30~16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	15人	タイ(2) 中国(5) フィリピン(4) ベトナム(4)	仕事に就くために	ハローワークの説明 就職活動で使う語彙の習得	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
2	平成25年11月6日 13:30~16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	15人	タイ(2) 中国(5) フィリピン(4) ベトナム(4)	冠婚葬祭マナーについて	葬儀の際に使われる語彙の習得 服装、動作のマナーについて	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
3	平成25年11月11日 13:30~16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	16人	タイ(2) 中国(4) フィリピン(5) ベトナム(4)	コミュニケーションマナーについて	敬語・丁寧語について	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
4	平成25年11月14日 13:30~16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	16人	タイ(2) 中国(4) フィリピン(5) ベトナム(4)	就職活動について	いろいろな場面を想定しての、電話のかけ方について	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
5	平成25年11月19日 13:30~16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	14人	タイ(2) 中国(4) フィリピン(5) ベトナム(4)	就職活動について	履歴書・面接の語彙について	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
6	平成25年11月22日 13:30~16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	14人	タイ(1) 中国(4) フィリピン(4) ベトナム(4)	就職活動について	面接での服装・動作のマナーについて	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
7	平成25年11月25日 13:30~16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	15人	タイ(2) 中国(5) フィリピン(4) ベトナム(4)	就職活動について	面接での敬語・丁寧語の使いについて	朝日 恵子 瀬川 純子 岡 真子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子
8	平成25年11月29日 13:30~16:00	2.5時間	峰山総合福祉センター	15人	タイ(2) 中国(5) フィリピン(4) ベトナム(4)	就職活動について	模擬面接	朝日 恵子 瀬川 純子	藤村 益弘 東村 幸子 上田美知子

(7) 参加者の募集方法

京丹後市から16歳以上の在住外国人リストをもらい、個別に発送を行った。

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

- * ハローワークや市内各種企業から講師を招き、毎回、日本語教室の最初の15分間、それぞれの職種についての説明や企業としてどんな人に働いてもらいたいかなどについて、学習者へ直接お話しいただいた。
- * 葬儀、面接などの際の服装についても、実際に服を用意し学習者にイメージしてもらった。
- * 最終回には、行政の元人事担当者に協力いただき、模擬面接を一人ひとり行った。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

- * 取組終了後に個別に聞き取りを行った結果、日本の冠婚葬祭のルールについて、これまで教えてくれる人が周りにいなかったという学習者が多かった。
- * これまで漠然と、いつか仕事に就きたいと思っていた学習者にとって、どうやって仕事を探すかなど就職までの流れについて理解でき、今後の学習意欲や就業意欲の向上につながった。
- * 今回協力していただいた市内企業には、在住外国人の就業への意欲を理解してもらうことができた。企業に就業を希望する在住外国人に対しての日本語教育の重要性を理解してもらい、今後も連携・協力体制ができた。

(10) 改善点について

- * 学習者の中で、来日年数に差が大きく、日本の会社や働き方について、すぐにイメージできる人と、全くイメージが持てない人がいた。イメージできない人への対応をもう少し丁寧に考えるべきだった。

○取組4:日本語教室推進委員会

(1) 体制整備に向けた取組の目標

日本語教育の継続と発展に向け、取組1～3を検証しながら、学習者の状況など整理し、今後の日本語教室の実施に向けて課題と取組を企画する。

(2) 取組内容

今後の日本語教室の運営、人材育成、市民への周知の取り組みなどについて、市国際交流担当者や日本語教室の中核メンバーなどと検討する。

(3) 対象者 市内在住外国人(近隣市町村からも参加可能)

(4) 参加者の総数 8 人

(出身・国籍別内訳 日本 8 人)

(5) 開催時間数(回数) 9 時間 (全 3回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年7月25日 13:30～16:30	3時間	京丹後市役所	8人	日本	在住外国人の状況	受講者の反応や学習歴についてのまとめ		
2	平成25年9月30日 13:30～16:00	3時間	京丹後市役所	8人	日本	連携団体について	日本語教室におけるハローワークと市内企業の連携について		
3	平成25年12月9日 13:30～16:00	3時間	京丹後市役所	8人	日本	今後の日本語教室の展開	日本語ボランティアの人材育成と今後の目標について		

(7) 参加者の募集方法

個別に依頼。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

- * 推進会議では行政担当者も加わり、在住外国人が地域の住民として認められるためには、本人の学習努力と行政・企業・地域の理解が必要と共通認識を持つことができた。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

- * 上記の会議以外にも、メーリングリストなどを活用し、学習者のレベルやニーズの分析や情報交換がこまめに行うことができ、学習者ひとり一人の課題や今後の学習の進め方などについて認識の共有がこころうことができた。

(10) 改善点について

- * 日本語を学習するだけでは解決されない問題への対応についても、日本語指導者が関わる状況があり、役割の徹底と相談等専門部署につなぐことの徹底を図る。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

生活者としての外国人が、情報収集能力をつけ、制度等の理解を深め、自立と社会参画を促進し多文化共生のまちづくりに資することを目的とした。生活に関する身近な制度について知識を深めること、地域の慣習等について理解を深めるという学習目標に沿って日本語教育を進めていく。

(2) 事業目的の達成状況

- * 学習中に分からないことがあれば、講師や講義補助者が細やかにサポートする体制を整えてはじめていたので、日本語レベルに差があっても理解しやすいよう対応ができた。
- * 市広報担当課・消防本部・ハローワーク・市内企業などの連携・協力で日本語講師だけでは教えることのできない専門的な内容を学習に盛り込むことができた。
- * 一時保育を設けたことで、子育てのために通常の日本語教室には通えないという方にも参加してもらうことができた。

(3) 地域における事業の効果、成果

- * 本事業の実施とは別に、当協会が多文化共生セミナーを開催し、行政や消防署、市内企業の方にも参加してもらっていたこともあり、日本語教育の必要性について理解が得られやすかった。在住外国人への周知についても、在住外国人の情報を提示してもらえたことで、周知が対象者すべてに行うことができた。それにより、これまで日本語教室があるということを知らない方の参加もあった。
- * 市広報誌に日本語教室が掲載されたこともあり、市広報誌について興味を持つことにつながった。
- * 今回、多様な分野について学び、生活に必要な日本語を活用することで学習効果を向上するとともに、新たな挑戦で人の繋がりを広げるきっかけとなり、地域社会で人間関係を築くことができました。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

- * 市内1か所でクラス形式での開催のため、公共交通の不便な京丹後市では交通手段がない在住外国人には参加しにくいとため、開催場所の選定を市内の中心部で行ったが、今後は開催時間も含めて、より参加しやすい設定をする。
- * 今回は、開催日程が日中に仕事をしている人には参加しにくい時間帯だったこともあり、就業しているが、日本語学習が必要な人には受講してもらうことができなかった。
- * 学習内容については、日本語教育の専門家がいらないが、運営委員(地域日本語コーディネータと日本語教師の方)に協力をいただき、随時メール等でアドバイスがいただけたので、学習内容や指導の仕方などを考える際に非常に心強かった。

ii 今後の課題

- * 今回の学習内容を、他の日本語ボランティアが通常の日本語教室で教えることができるように、日本語指導者のレベルアップする機会を設けること。
- * 在住外国人が多く就業している企業との連携を行い、就業しているが読み書きができない在住外国人への日本語学習の機会の提供と、理解を得ることが課題。

iii 今後の活動予定

- * 今回の事業内容を通常の日本語教室でも行えるよう、他の日本語ボランティアへ理解と指導力の継承を行う。
- * 在住外国人の多くが女性であり、子育て中の方が多いということが分かったので、今後は、日本語教室だけでなく、専門家や地域の福祉委員などを交え、子育て座談会のような場を設けることも検討していく。
- * 当協会が進める多文化共生事業と合わせて、行政、市内企業、地域などとの連携を深め、日本語を習得した方が活躍できる機会を市内全域で進めていく。